

通常展「谷崎潤一郎 人と作品」

芦屋市谷崎潤一郎記念館開館30年

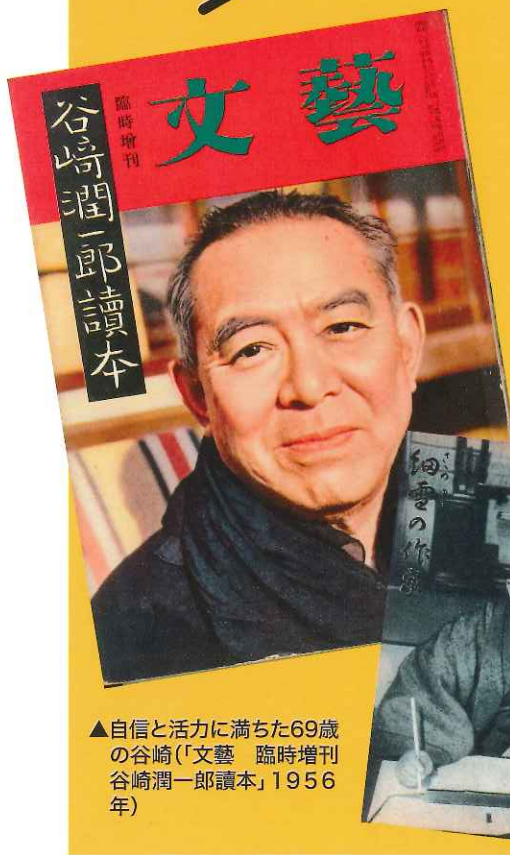
▶2番目の妻「丁未子」との結婚を報じる記事
 (「婦人サロン」1931年)



作家谷崎の横顔

グ ラ ビ オ

2018 12/15(土) ▶ 2019 3/24(日)



▲自信と活力に満ちた69歳の谷崎(「文藝 臨時増刊 谷崎潤一郎讀本」1956年)



◀京都の自宅で執筆中。撮影は林忠彦(「婦人公論」1947年)

【開館時間】午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
 【休館日】月曜日(祝日は開館し翌日休館)、12月28日(金)～1月4日(金)
 【入館料】一般:300円/大高生:200円/中学生以下無料
 ※団体料金(20人以上)は2割引
 ※65歳以上、または身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方、ならびにその介護の方1人は半額

大衆社会の成熟につれてさまざまな雑誌が出版され、作家がグラビアや記事で紹介される機会も増えました。奥さんはどんな人？趣味は？ ペットは？好きな女性のタイプは？——。読者の関心は作品そのものにとどまらず、作家本人へと向かったのです。土門拳や林忠彦など名だたる写真家によってとらえられた谷崎潤一郎(1886～1965年)の素顔と私生活を、通常展「谷崎潤一郎 人と作品」と合わせ、約100点でたどります。

谷崎記念館アクセスマップ



主催 芦屋市谷崎潤一郎記念館
 Tanizaki Junichiro Memorial Museum of Literature Ashiya

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12番15号 Tel:0797(23)5852/Fax:0797(38)3244
 e-mail: ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp ホームページ: http://www.tanizakikan.com

◎徒歩:阪神芦屋駅から南東へ15分 ◎バス:阪急芦屋川駅・JR芦屋駅・阪神芦屋駅いずれも「緑町」下車、東へ徒歩1分

後援 読売新聞大阪本社 大阪よみうり文化センター

駐車場:隣の美術博物館20台